

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191600087		
法人名	株式会社シンエー		
事業所名	グループホームのどか		
所在地	埼玉県上尾市須ヶ谷一丁目79番地1		
自己評価作成日	平成26年10月21日	評価結果市町村受理日	平成27年7月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	平成26年11月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員だけではなく、ご家族と職員で利用者一人一人を支え“大切な家族と一緒に過ごせる”場を作るように努力しています。
又、日々の中で楽しみや希望が叶えられるようにしたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・「家族と一緒に利用者を支える」を基本に、家族との協働が図られ、運営推進会議は勿論のこと、イベント開催時には企画、準備の段階から参加を頂き、納涼祭や鍋パーティでは道具の準備、料理などに力を発揮されている。また、利用者の生活における達成感を大切に、力量に応じて家族や職員と一緒に挑戦していただいている。
・ご家族のアンケートでも、「訪問し易いし、職員さんが話し易い。健康管理についても看護師さんが窓口になり、こちらの思いが伝わり、連携が取れている」、「夏の納涼祭では、他の家族の方とお手伝いさせて頂き、楽しいひと時を母と過ごすことが出来ました」などのコメントが寄せられ、家族と職員との信頼関係に高い評価が得られている。
・目標達成計画の達成状況については、防災対策での地域との協力体制作りを取り上げ、職員が地域の防災訓練に参加したり、町内会長と地域の避難経路や避難方法の確認を行うなど、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼の際理念を読み上げ理念についての話しをしている。	理念の読み上げと同時に、その意味や内容を職員同士で考え、チームとしての連携と共有化に役立てられている。新しい職員が入職されたときにも、理念に基づいた指導が行われ、利用者の「その人らしい生活」を支えられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	移動販売に来て頂いたり、ご近所から野菜を頂くなど交流している。納涼祭やイベントの際は、地域の方へ声をかけ参加していただいている。	利用者から日常的な近所づきあいの方法や顔なじみとの交流などを職員が学ぶことがあるほど、親しくしていただいている。納涼祭や地域イベントへの相互参加も行われ、気軽に声をかけ合うつきあいが図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内で行なっている研修の内容を運営推進会議で話し理解を広めている。又、代表者・看護師が認知症について講演も行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度取り組んでおり、その際行事の提案や気づきなど意見を頂いている。	運営推進会議では様々な議題が取り上げられ、参加者からの積極的な意見・提案が出され、事業所の運営にも活かされている。Q&A方式で疑問に応えたり、職員が研修内容について発表する機会を創るなど、独自の取り組みがなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市が中心となり取り組んでいるグループホーム事業所の集まりに参加できなかったため、次回は参加したい。又、月に一度市から相談員に来て頂いている。	運営推進会議の議事録を届け、その内容の説明を行い、市担当者からアドバイスを受けるなど良好な関係が築かれている。また、市の声かけでグループホーム管理者や介護職員が集まる機会もあり、協力連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、勉強会や回覧で周知している。抑制せず見守り中心で行動把握に努めている。	利用者の行動を抑制しないよう努められ、外に出られたときなどは、一緒に寄り添い、自由に行動いただけるよう支援が行われている。ドラッグロックやスピートロックにも注意を払い、職員同士がお互いにチェック確認し合える環境が整えられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で研修を行ない学んでいる。入浴時は全員ボディチェックを行ない、介助者については毎晩更衣の時にアザのチェックを取り組んでいるためスタッフの意識づけにもつながっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度について玄関にパンフレットを掲示し家族に情報を提供		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前(事前調査)から契約時などに重要事項や生活パターンなどを話し不安なことなども尋ねている。又、契約後もご家族とこまめに連絡を取るようになっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された際には、様子の報告を行ないご家族より意見を聞くように努めている。又、行事などに家族へ参加して頂き話しやすい環境作りを心がけている。	家族からは運営についての提案・要望をいただいたり、イベント時には企画や準備にも参加されるなど、協力・連携が図られている。面会の機会も多く、利用者の希望を「こんなことを話していましたよ」などと気軽に伝えていただいている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、夜勤時などスタッフとコミュニケーションを図っている。 管理者は、日々話をしているつもりであるが、今後は日々のコミュニケーションにプラスして対1で意見を聞く場を作っていく。	職員は自主的に考えたアイデアを提案したり、利用者が望まれたことを話したりするなど、発言しやすい環境が整えられている。提案されたことは週2回のケース会議で議題に取り上げ、職員間で話し合い、考え方を統一し実践されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士など資格取得者には、表彰を行なっている。 又、新たに事業所を開設しキャリアUPなど希望に添えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内で研修を行なっている。 又、講演など聞きに出向いているスタッフもいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の施設や、代表者の関係する事業所と交流し、相互に情報交換をすることでサービス向上の取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に実施調査や顔合せを行ない、暮らしの様子や生活歴などを聞き、入居後ホームになじめるように家事や外出役割を持って頂くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	来所された際、気になることなど電話にて連絡をこまめに取るよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や電話問い合わせの際に、話を聞き、必要としている支援に応じて他施設の紹介もしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活、身の周りのことを一緒に行なうよう努めている。料理や畑、昔のことなど教えて頂くことも多い。 又、一緒にゆっくりとお茶を飲む時間を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と利用者が共に楽しめる場を作るよう心がけているがまだ参加は少ない。参加して下さる方から「参加する家族が少ない」や「楽しかったからこのようなことがあるといい」とその場で意見をもらっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人が来所されたり、ホームに電話が来ることもある。以前通っていたあみもの教室へ行かれる方もいる。	家族の協力で以前から利用していた百貨店での買い物や、地域の交流会に出かけるなど、馴染みの関係継続には事業所として積極的に支援が行われている。友人へ電話をしたい利用者への手伝い、手紙の取次ぎなどが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩や外出なども何名かで一緒に行き、孤立せず関わり合うことができている。(車イスの方へ話しかけていたり、配膳できない人の分を自立歩行ができる方が配るなどしている)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時などには、お見舞いやお医者様からの病状説明を家族と聞き相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中で思いや希望を聞き出しスタッフ同士で共有できているが、買い物などの希望が言える人に片寄ってしまうのが今後の課題である。	本や釣りの話などから趣味を知ることで、利用者の思いや意向を把握するなどの取り組みがなされている。利用者が意思表示されたことや、自分で出来ることは思い通りに実行していただき、達成感を味わえるよう支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人に伺うのはもちろんであるが、ご家族やご友人が来所された際に伺い、昔の暮らしの様子なども少しずつ把握できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方など把握してきているが書式にしていなかったため24時間シートを作成し、取り組み始めたところである。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族が来所した際には日々の変化や様子などを話をしたり変化があった際はその都度話をしていたが介護計画やモニタリングの見直しができず、現在取り組んでいる。	職員から利用者一人ひとりに何が必要なのかを聞き、家族とは要望と介護への方向性を確認し、介護計画が作成されている。プランの作成や見直し時には、職員が利用者をどれだけ理解し、変化に気づいているかを知る大切な機会と捉えられている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録物を作っており記録している。ミーティング時に情報を共有しながら介護計画の見直しをしているところである。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人を支えるため変化があれば朝礼の際話をしている。 又、必要に応じてご家族にも連絡し相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防訓練に参加したり、行事の際は、自治会長ヘイスやテーブルの使用の相談を行ったり、行事に参加していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、病状や希望に応じている。又、かかりつけ医と看護師が話し、病状の把握、情報の共有をしている。	看護職員からの指示・情報をもとに、職員への周知が図られ、病院受診や家族への連絡などがスムーズになるよう取り組まれている。近隣の病院の先生とのコミュニケーションも図られ、日常的な相談なども行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師が配置されており、健康面や気づきがあった際には、相談し、指示を受け適切な支援に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご本人、家族の意向や主治医やソーシャルワーカーと病状の共有、話し合いを小まめに行ない、入退院時の病院との関係作りを行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期について、事前に話をしているが、その状態になった際には、主治医よりご家族へ今後考えられることなど説明を行ない、再度方針の共有をしている。	常に現状の把握と先を見据えた対応に心がけられ、家族とも話し合い、考え方をきちんと聴き、それに基づいた支援が行われている。「ここで良いのか？病院か？」の家族の不安にも応えられ、医師・看護師を含めて十分な話し合いがなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、社内研修を行なっている。又、消防署より応急手当など指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策など施設内研修を行なっている。又、自治会長とも防災対策について話をしている。	風水害等、想定別の避難訓練に加えて、事業所内での研修が行われ、職員の防災意識を高めるよう取り組まれている。自治会とは避難ルートや避難方法の確認がなされ、職員が地域の防災訓練に参加し、協力体制作りにも努められている。	地域の方々に事業所や利用者の様子を知っていただくことが、災害発生時の協力支援にもつながると想定されることから、近所の方や家族の参加した避難訓練が企画実施されることに期待したい。

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時やトイレ時ドアを閉めたりタオルで身体を隠すようにしている。	居室は利用者の「家」として認識され、入室時のマナーを守り、物の出し入れなどは利用者と一緒にするなど、プライバシーへの配慮が図られている。着用する洋服も自分で選んでいただくなど、一人ひとりを尊重した支援が行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつや飲み物や買い物などへ行った際もご自分で選んで頂くよう支援し、思いや希望が言える方は自己決定できている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	離床や臥床など一つ一つの行動もご本人に希望を聞き対応するよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度理美容に来て頂いたり近くに散髪をしに行けるよう付き添いを行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付け盛り付けなどできる方で分担して行なっている。好きな物や行事などで作って食べている。	お好み焼きや焼肉パーティをユニットごとに行い、利用者は野菜の皮むきやお茶出しのお手伝いをされ、皆で楽しみながら食事が行われている。献立のカロリー、水分量などは栄養士により管理され、おやつにはコーヒー・紅茶を自分で選んで飲まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が少ない方にはゼリーなどを提供し補っている。 食事が少ない方には、一緒に買い物へ行き好きな物を選んで食べて頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日1回スタッフが介助し、週に1回訪問歯科に来て頂き状態維持・把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、又、その日の排泄の状況を確認し、トイレ誘導やオムツ交換の時間を変えている。	利用者の「プライド」を重視し、看護師と相談しながら自立に向けた取り組みが行われている。入所時はリハビリパンツ使用だった利用者が布の下着使用に変わったケースも見られる。失敗などには大騒ぎせず、さりげなく対応することで、羞恥心への気配りもなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を食べて頂いたり、「の」の字マッサージを行ない自然排便ができるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望が言える方は、入浴の時間やお湯の温度も調節している。	お湯の温度や脱衣場、浴室の温度などには十分気を配り、湯船にゆっくり入っていただけるよう二人対応の支援も行われている。自立の利用者は離れて見守り、自分のペースで職員との会話などを楽しみながら入浴されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時にリラクゼーションなどの目的としてアロマをたいたり、温かい飲み物を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬について書式化しており服薬についての把握・支援ができている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やできること、得意なことを把握し一人一人に合った役割りを持ってもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	農家へ買い物やおやつ外出など希望に応じている。又、ご家族との外食・外出も声かけが必要であれば送迎も行なっている。	車椅子使用の利用者にも毎日外で外気浴をしていただき、また、家族の協力で外での食事をされるなどの支援が行われている。駐車場のベンチでお茶を楽しめることもあり、その様子は手紙や写真で家族にも伝えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの方は、立て替えであるが、何名か自己管理されている方もいる。ニセ物のお金を作り施設内で使用した		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ケータイを持ち自由に電話している方や施設の電話でご家族やご友人に電話をしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる飾りをしたり、スタッフの温度にせず、利用者に合わせている。テレビや音楽を消しゆっくりお茶を飲みながら話をするなどの時間を作っている。	利用者の要望を聴いて温度を調節したり、玄関や駐車場に座ってくつろげる場所を設けるなど、利用者によりやさしい環境が整えられている。季節感や調理する匂いや音などの生活感と、ゆったりとした共用空間作りがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1Fにはウッドデッキ、玄関外にはベンチがあり、外気浴をしたり、外で歌を唄ったり、お茶を飲んでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族へ説明を行ない、なじみの家具や使い慣れたものを持ち込んでいただいて居心地よく過ごせるようにしている。	利用者それぞれの個性を活かした居室作りへの支援がなされ、家具の位置などのこだわりにも対応し、居心地良く過ごされるよう努められている。使い込まれた茶筆筒、家族の写真、自分で作った人形や書籍などを自由に持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	コップやおはしなど棚にしまわず、出しておくことでご自身で準備できる方もいる。又、表札を付けることで自立して生活できている方もいる。		

(別紙4(2))

目標達成計画

事業所名:グループホームのどか

作成日:平成 26年 12月 26日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災対策において夜間帯は職員対応が少なくなる事もあり、全職員に利用者が安全に避難できる方法が身についていない。	夜間帯対応職員が夜間帯の避難ルートや避難方法を把握し安全に避難誘導が行える。	夜間想定訓練の実施、対応職員の防災意識を高める為の内部研修。 地域との連携を確認する為に職員の地域防災訓練への参加。	12ヶ月
2	13	職員の入退職が多く、一定レベルの介護技術や知識に至らない職員がいる。	利用者の安全の為の一定レベルの介護技術や知識を有することが出来るような体制が出来ている。	内部・外部研修の機会を設ける。 運営推進会議なども勉強会として活用する。職員同志のサポート体制をとれるようシフトを組む。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。